

甦った木の化石（メタセコイア）

・・世紀末の世 どう映る・・

一年前の元旦特集は戦後五十年の節目と
二十一世紀を見据えての環境問題や地球温
暖化など、世界をみる目線での問題が多く取
り上げられていた。ところが阪神大震災、オ
ウム事件、銀行倒産に不況リストラ、就職難
など厳しい現実が相次ぎ、今年の特集は戦後
の政治や経済の曲がり角論に見事に様変わ
りしてしまった。わずか一年での激変に戦後
を見続けていた「甦った木の化石」メタセコ
イアはどう見ているのだろう。

日本の古い地層から発見された化石が、巨
木の代表であるセコイアの先種としてメタ
セコイア名付けられた。すでに
絶滅種と見られていたが、中国の四川省の奥地で生きた化石で発見されたのがまさに一
九四五年、終戦の年だった。幻の魚シーラカ
ンスの陸上版である。

そして五年後、湖西省で見つけられたメタ
セコイアから採取され実から育った苗、百本
が日本に送られ、皇居や小石川植物園をはじ

め各地に植えられ全国に拡がった。生きた化
石のメタセコイアが甦ったのである。日本名
はアケボノスギ。成長は早く樹齢二、三百年
ともなると三十メートルを超す巨木になる。

筆者の勤務している大学の構内にもメタ
セコイアの大きな木が四本植えられている。
樹齢から推して最初の苗か、そう遅くない時
期のものだろう。晚秋になると橙がかった黄
葉が小枝と一緒に落ちて、まるで酸性雨で枯
れたヒマラヤスギの容貌のような奇妙な木
である。

その巨木群の化石跡がカナダ北極圏、グリ
ーンランドのなかから、まるでつい最近まで
生きていたかのような姿で掘り出された。二
酸化炭素と気候変動の係りを解く鍵の一つ
を握っているといわれている。

気象を専門とする大学にとって、気候変動
に翻弄されて、一時は絶滅といわれたメタセ
コイアの子孫が奇妙な姿で並んでいるのも、
先人の深い示唆を感じて興味深い。人類より
一桁長い悠久の時間を生き延び、終戦の年に
発見され戦後に甦ったメタセコイアの目に
日本の繁栄と挫折がどのような姿に写つてい

るのだろうか。

（一九九六年一月六日）